

まちの話題

このページでは、市民の皆さんの活躍やまちの話題などを紹介しています。身近な話題や、広報紙についての意見を、秘書広報課までお寄せください。

ツバキ色とりどり

松花堂庭園に咲くツバキや竹細工に生けたツバキなどを楽しんでもらう「松花堂つばきウィーク」が3月9〜17日に開催され、色とりどりのツバキが来園者を魅了しました。同イベントは、ツバキの魅力を知ってもらおう

松花堂庭園イベント

と、見ごろに合わせて同庭園が毎年企画しています。園内に植えられた200本を超えるツバキのうち、ピンク色の「有楽」や、白色の「白寿」などが来園者をお出迎え。至る所に、趣向を凝らした竹細



ツバキを楽しみながら庭園内を散策する来園者

園内に200本超 来園者お出迎え

工にツバキを生けた作品が据えられていました。期間中には、現在、災害復旧工事中で見学不可となっている内園の草庵「松花堂」の特別公開のほか、日曜茶席や八幡市出身の木器作家・前田昌輝さんの「木の器展」、市文化協会陶芸部会の作品展も開催。同作品展では、ツバキをモチーフにした作品もあり、来園者はツバキ尽くしのイベントを満喫していました。城陽市から夫婦で訪れた石川章子さんは「手入れが行き届いた庭園で驚きました。ツバキの説明も添えられていて楽しめました」と話していました。



内園の草庵「松花堂」を見学する来園者

合唱する卒園児（写真左＝八幡幼稚園、同右＝八幡第四幼稚園）



お別れの歌 合唱 ♪♪♪ 思い出いっぱいありがとう

公立就学前施設の再編により、令和5年度をもって他園と統合する八幡幼稚園、八幡第四幼稚園が3月18日、最後の卒園式が行われました。卒園児や保護者、先生が思い出の詰まった園舎に感謝と別れを告げました。

2園で最後の卒園式

八幡幼稚園では10人が、八幡第四幼稚園では16人が卒園。一人ずつ名前を呼ばれた園児が将来の夢や小学校でがんばりたいことなどを発表したり、園長先生から修了証書を受け取ったり、お別れの歌を合唱したりしていました。

式後、各園では園舎に別れを告げるセレモニーが行われました。八幡幼稚園では先生や園児らの手形で彩られた「ありがとう やわたようちえん」の横断幕に、園児や保護者が油性ペンで思いのメッセージを書き入れ、記念撮影をしたり、シャボン玉を飛ばしたりして、仲間との最後の時間を楽しみました。八幡第四幼稚園では「ありがとう八幡第四幼稚園」のメッセージがかけられた園舎の前で、卒園児と保護者が色とりどりの風船を飛ばし、風に乗って飛ぶ風船を笑顔で見送っていました。

れ、夢中で遊んだことが溝上さんの心情の動きとともに綴られ、「とにかく、ダウン症に関係なく妹が大好き。ずっといっしょにいたい」と願う優しい気持ちがあふれています。

将来は「大きくなったら3姉妹で温泉や海に旅行に行つて、おいしいものを食べて、たくさん遊びたい」と笑顔で話していました。

本コーナーでは、市にゆかりのある人物や団体を紹介しています。詳しくは、市ホームページまたは秘書広報課へ。

今月のこの人 徒然草エッセイ大賞 小学生の部大賞受賞



市が「ときめき」をテーマに募集した「第七回徒然草エッセイ大賞」で、小学生の部大賞を受賞。美濃山小学校6年生。

溝上ふみさん

「大好きな妹のことを書いた。みんなに妹のことを知ってほしいと思っていたのでうれしい」と受賞の喜びを話すのは、美濃山小学校6年生の溝上ふみさん。

溝上さんは3姉妹の長女。「ときめき」というテーマを聞いてすぐ思い浮かんだのは、ダウン症の一番下の妹。4歳のかわいくてしかたがな

い妹が、高熱を出したときの出来事を「私の妹と私の願い」と題して著しました。

エッセイには、授業中でも妹の容態が心配でたまらなかったこと、数日後の朝、元気になった妹が遊ぼうと起こしに来て、うれしくて眠気も忘